

あのね、保育の根 No.15

～ふくえんちょうのおたより～ 6月



※『あなたは、誰かの大切な人』

新年度が始まり2か月..子どもたちも新しい環境の中でここまで“毎日”を重ねています。嬉しい気持ちもあれば、不安や戸惑いも見られるこの時期。日頃から、たくさんの子もたちの姿を見ていると「人は誰かとの関わりの中で育っていくんだなあ」と、改めて感じます。

急にどうした..(笑) というのも先日、原田マハさんの『あなたは、誰かの大切な人』という本を読みました。6つのエピソードからなる短編集で、様々な「大切な人」との関係が描かれています。ちなみに私の推しは『緑陰のマナ』と『無用の人』です。

『緑陰のマナ』では誰かにとって思い入れのある食べ物を通して、受け入れてもらえた..というじんわりとした喜びが描かれています。『無用の人』では、娘が後になって、父が自分のしたいことを否定せず、黙って見守ってくれていた存在だということに気付く..ということが描かれています。すぐには分からなくても、「自分は大切にされていたんだ」と気付くときがあって、それが人の心を静かに支えているのだなと感じました。“誰かに大切にされていた記憶”というものは、人が生きていく上での土台になっていくのだな..と。

そして、この本を読みながら、自分が昨年書いていたおたよりも思い浮かびました。この話も子どもたちの育ちに繋がるよなあ、と。

※振り返りの時間

子どもたちは毎日の中で、挑戦をして成功と失敗を繰り返しています。友だちとうまくいかない、思い通りにいかなくて悔しい、まわりと同じようにできないことで落ち込んでみたりもして。そんな時「どうしてできないの？」ではなく「悔しかったね」「チャレンジしてみようと思ったんだね」と受け止めてもらえた経験は、きつ

と「うまくいなくても大丈夫」という安心に繋がっていくはず..。

昨年のおたよりでは「頑張らせること」よりも「頑張ってみようと思える関係性を築くこと」が大切なのではないかと..あと、レジリエンスについても少々書きました。レジリエンスというのは..長くなりますので、内容が気になる方は直接お声掛けいただくか、園のHPをご覧ください(笑) ここでは簡単に..安心できる存在や戻ってこられる場所(安全基地)があるからこそ、もう一度前を向こうとすることができます。

そして、その安心感はその場限りで終わるものではないのかもしれない、と思います。子どもの頃に「受け止めてもらえた」「見守ってもらえた」といふ経験は、すぐに気付くものではなくても、すぐに形にならなくても、それぞれの人生のどこかのタイミングで、その人の心の支えになっていくのかなと。

※誰もが、誰かの大切な人

これも昨年度お伝えしたことではありますが、子どもたちにとって家庭や園が「うまくいなくても戻って来られる場所」でありたいと思っています。そして「自分は大切にされている存在なんだ」と感じられる経験を積み重ねていってほしいと思っています。それに少しでも協力することができたらなと、そう思っています。

そしてそれは、子どもたちに対してだけではなく、おとなにも当てはまること..そのことに改めて気付けた一冊..おすすめです◎(笑)

今年はたくさん本を読みたいな~と思っています。日頃から支えてくれている先生たちへ..そんな時間を作るために、みんなで業務を分担していこうね！(笑)

今年度もよろしく願いいたします。大井